

第20回茨城県視覚障害者福祉大会決議

- 一、 日常生活に必要な外出を支援する同行援護事業において、サービス利用範囲の拡大、福祉送迎要件の緩和など、利用者ニーズに合ったサービスの提供と地域間格差の解消に向けた取り組みを強化するよう要望する。
- 一、 補装具・日常生活用具給付事業における地域間格差の解消に向けた取り組みを強化し、利用者ニーズを適切に反映した制度の運用を図ることを要望する。
- 一、 視覚障害者の鉄道駅での安全確保のため、駅職員の適正な配置と見守りサービスの充実、ラッシュ時には駅員の増員を行うことを要望する。
- 一、 視覚障害者が鉄道無人駅ホームを安全に移動できるよう、列車乗務員によるサポートやホームの安全対策（階段の音声案内装置、ホーム中央の誘導ブロックの設置等）を早急に実施するよう要望する。
- 一、 視覚障害者が鉄道を安全に利用するため、歩きスマホの禁止等のマナーを啓蒙し、声かけ運動を継続するよう要望する。
- 一、 視覚障害者が必要とするすべての交差点へ、音響式信号機、エスコートゾーン及び誘導用ブロックの設置を要望する。
- 一、 デジタル化の進展においては、視覚障害者にとって使いやすいICT（情報通信技術）機器やシステムを開発し普及させることを要望する。
- 一、 スーパーマーケットやコンビニ等がセルフレジ化した場合でも、視覚障害者が一人で利用できるよう、介助スタッフの配置や店員対応のレジを残すことを要望する。
- 一、 視覚障害者の情報障害を補うツールとしてのパソコンやスマホなどの情報機器の取り扱いに関する支援の充実を要望する。
- 一、 視覚障害者の就労機会の拡大や中途視覚障害者の社会復帰、雇用継続を進めるため、職場環境の整備を進めるとともに、合理的配慮を促進するよう要望する。

- 一、 視覚障害あはき師への支援策の確立や無資格医業類似行為者の取り締まり強化によって、視覚障害あはき師の生計と職業領域が維持されるよう要望する。
- 一、 白杖やラジオなど、視覚障害者に必要な支援用機器材の備蓄や盲導犬ユーザーを始めとする要援護者へのきめ細かな対応など、災害時の避難所における支援体制の充実を要望する。
- 一、 視覚障害者に関する福祉用具の価格が上昇し、拡大読書器や視覚障害者安全つえ（白杖）などの値段が改定され、自己負担額が増えており、補助基準額の見直しを要望する。

以上決議する。

令和4年11月13日

第20回茨城県視覚障害者福祉大会